

実施日：10月3日(5校時)	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名：幸せになるために (DV 防止講演会)	
対 象：全生徒	実施場所：本校体育館
ア ねらい DV とは何かを知り、その被害に遭わない、また加害をしないための意識や態度を養う。	
イ 指導内容 (指導略案) や取組の概要 (事前) ・ DV とは何か? DV の定義を確認する ・ 暴力はどんな時に起きるのか? 力の支配であることを理解させる ・ 暴力の種類はどのようなものがあるかを理解させる 〈体への暴力・心への暴力・性的な暴力・言葉の暴力〉 ・ 自分の周りで暴力はないか確認する ・ DV についての事前意識調査 《講演》 (事後) ・ 講演を聞いてから、DV についての事後意識調査	
ウ 連携先： ・ 兵庫県児童虐待等対応専門アドバイザー 島田妙子 ・ 校区の3小学校 ・ 保護者	
エ 連携にむけての取組 ・ 実際に虐待を受けたことがある講師を招いて、DV は命を脅かしたり人格を否定したりする危険があることを体験をもとに話してもらう。 ・ DV 防止には保護者のしっかりとした意識が必要なことから、講演会を本校の保護者や3小学校保護者、地域の人にも呼びかけ、未然防止意識の向上を図った。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 全職員で DV 防止について共通理解して取り組むとともに、講演会后、各担任が生徒の感想文を読み必要に応じて教育相談をした。	
カ 評価の方法 講演会後の生徒の感想文 [別紙⑤]	
キ 成果 講師自身が7年間にわたって親から受けていた虐待や、同級生からのいじめの話、中2の担任との出会いなど、体験を具体的に話されたので生徒たちは引き込まれるように熱心に聞いていた。見える暴力はもちろん、見えない暴力について、自分たちの身の回りで起こっていることを確認し、生活を振り返ることのできる良いきっかけになった。DV の意味や暴力について講演会前に学習することで前向きに講話を聴くことができた。	
ク 課題 講演会前後の調査結果を比較すると、DV に対する正しい認識度が高くなっていったが、生徒の現状を見ると人間関係のトラブルが少なくない。家庭で DV 問題を抱えている生徒や今回をきっかけに何かを訴えてくる生徒がいらないかより注意深く生徒の様子を把握していく必要がある。今後、ロールプレイなどを取り入れた授業も考えていきたい。	